

国土交通省総合政策局
情報政策課交通統計室
平成25年9月3日(火)公表

トラック輸送情報

平成25年6月分

平成25年7月分は10月上旬公表予定

*問い合わせ先

国土交通省総合政策局情報政策課交通統計室

電話 03-5253-8111 F A X 03-5253-1567

担当 桑原 内線 28-723

この調査報告の概要は、国土交通省ホームページでもご覧いただけます。
<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

トラック輸送情報（平成25年6月分）

平成25年9月3日

総合政策局 情報政策課 交通統計室

担当：桑原 内線28723

直通：03-5253-8346

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

調査対象24社の本月の輸送量は、5,106,723トンで、前月と比べ総輸送量が約32千トン減少したため、前月比99.4%（季節調整済み94.6%）となり、前年同月との比較では、約40千トン増加したため、前年同月比100.8%の実績であった。

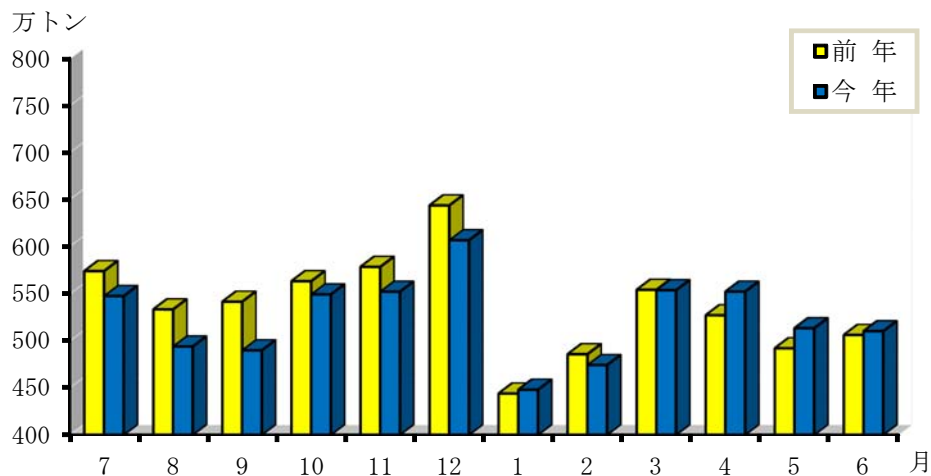
なお、平均稼働日数は24.2日で、前月と比べ0.8日増加し、前年同月との比較では、0.8日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、211,022トンで、前月と比べ約9千トン減少したため、前月比96.1%となり、前年同月との比較では、約8千トン増加したため、前年同月比104.1%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

注）平成25年2月から貨物輸送の調査対象については、2社減り、24社となった。

前月比及び前年同月比は、24社ベースで比較している（図1-1及び図1-2は24社ベースで作成）。

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比

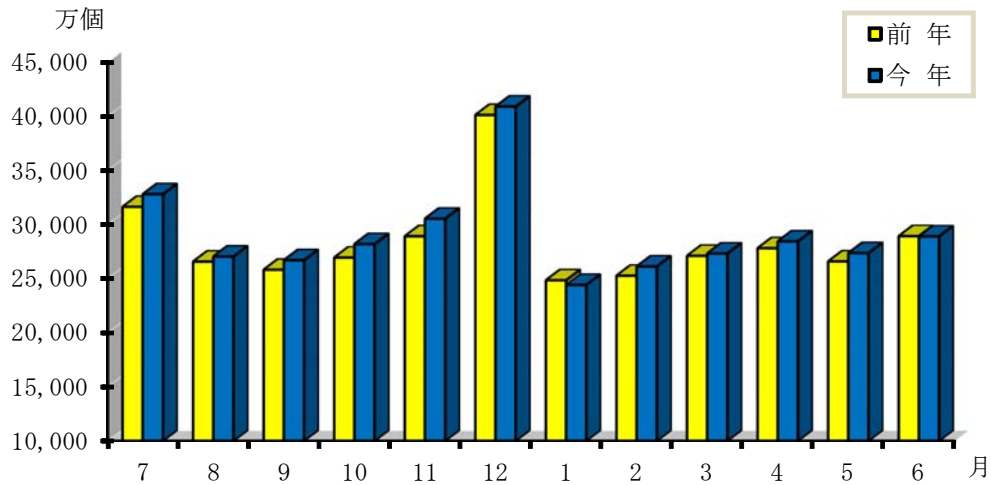


(2) 宅配便の概況

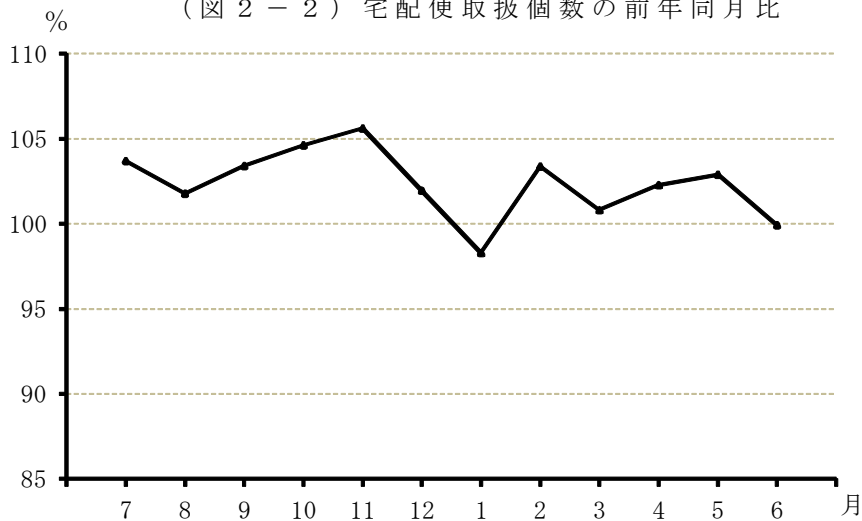
調査対象 14 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、289,153 千個で、前月と比べ約 15,427 千個増加したため、前月比 105.6% (季節調整済み 99.1%) となり、前年同月との比較では、約 240 千個減少したため、前年同月比 99.9% の実績であった。

(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 25 社の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、主な減少品目としては、「日用品」で、その主な減少要因は、工場・生産地からの貨物減と回答する事業者があった。

前年同月と比べて、主な減少品目は、「日用品」で、その主な減少要因は、倉庫から出る貨物減と回答する事業者があった。また、輸送量の主な減少地域は、「金属製品」では「北陸信越」が、「化学工業品」では「神奈川」であり、その主な減少要因は工場・生産地からの貨物減と回答する事業者があった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因
	著 増	増	変 ら ず	減	著 減			
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	1	13	2	2		
	金属製品			1	18	2		
	機 械	1	3	15	1			
	化学工業品			3	16	3		
	繊維工業品			3	18	1		
	食料工業品			3	15	2		
	日 用 品			4	14	5	その他の日用品	4
	そ の 他	2	3	11	1	3		
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品			13	4	1		4
	金属製品			3	13	4	北陸信越	4
	機 械				16	4		4
	化学工業品	1			14	7	神奈川	4
	繊維工業品			2	16	4		
	食料工業品			3	14	3		4
	日 用 品			1	15	5	書籍・印刷物、その他の日用品	7
	そ の 他	1	3	12	3	1		

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者792社/調査対象事業者数1,069社)の輸送量は、前月比 101.2%、前年同月比 100.5%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	100.5 %	101.6 %	102.3 %	97.7 %	101.1 %	99.3 %	93.5 %	98.1 %	104.3 %	102.3 %	101.7 %	
前 月 比	101.2 %	108.5 %	101.5 %	99.9 %	101.4 %	100.0 %	96.7 %	98.8 %	99.0 %	95.3 %	87.0 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況 (各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比108.5%、対前年同月比101.6%であった。品目別では、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「セメント」が、季節的需要増により「水産品」、「木材」、「砂利・砂・石材」、「食料工業品」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、価格変動及び灯油の需要減により「その他の石油製品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。また、工場・生産地からの貨物減により「化学肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比101.5%、対前年同月比102.3%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」、「水産品」、「食料工業品」が、景気の影響による貨物増により「砂利・砂・石材」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「穀物」が、工場・生産地からの貨物減により「工業用非金属鉱物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばい傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比で99.9%、対前年同月比97.7%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比101.4%、対前年同月比101.1%であった。品目別では、建設関連の需要増により「その他の窯業品」が、天候の影響により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比100.0%、対前年同月比99.3%であった。品目別では、「その他の化学工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「紙・パルプ」、「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降はほぼ横ばい傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比96.7%、対前年同月比93.5%であった。品目別では、夏季需要増大に向けての飲料等の備蓄製造が増えたことにより「食料工業品」が、お中元・夏物商戦に向けて出荷が増加したことにより「食料工業品」、「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、閑散期による稼働日数の減少により「紙・パルプ」、「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比98.8%、対前年同月比98.1%であった。品目別では、建設関連の需要増により「機械」が、工場・生産地からの貨物増等により「紙・パルプ」が、天候の影響により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「その他の農産品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比99.0%、対前年同月比104.3%であった。品目別では、「紙・パルプ」、「食料工業品」、「動植物性飼・肥料」、「廃棄物」の輸送量が増加したとする事業者があった。一方、季節的需要減により、「穀物」、「野菜・果物」、「その他の石油製品」が、工場・生産地からの貨物減により、「鉄鋼」、「機械」が、建設関連の需要減により、「砂利・砂・石材」の輸送量が減少したとする事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降はほぼ横ばいが予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比95.3%、対前年同月比102.3%であった。品目別では、商社・問屋からの貨物増により、「セメント」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「野菜・果物」が、建設関連の需要減と天候の影響により「機械」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比87.0%、対前年同月比101.7%であった。品目別では、建設関連の需要増等により「木材」、「鉄鋼」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		増	減	海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	計
1. 穀物	増	1	1							1		1		4
	減		3							1	2		1	7
2. 野菜・果物	増	2	4							1		2		9
	減	1	1						1		4	10		17
3. その他の農産品	増	1							1			1		3
	減									2				2
4. 畜産品	増	1										1		2
	減		1									1		2
5. 水産品	増	3	3		1					1				8
	減						1					1		2
6. 木材	増	5	3								1	1	2	12
	減		1							1		2		4
7. 薪炭	増													
	減													
8. 石炭	増													
	減	1												1
9. 金属鉱物	増		1									1		2
	減													
10. 砂利・砂・石材	増	12	4		1					1		3		21
	減	1						1		2	2	4		10
11. 工業用非金属鉱物	増	5									1			6
	減		2							1	2	1		6
12. 鉄鋼	増	1	1		1	1				1	1	1	2	9
	減	1	2			1				1	4	2		11
13. 非鉄金属	増	1	1		1									3
	減													
14. 金属製品	増	1	1		2					2		3		9
	減				3	1	1			1		2		8
15. 機械	増	2		1	1	3	2			3	2	5	1	20
	減		1			2	3				4	9		19
16. セメント	増	7	1		1	2						4		15
	減		1			2				1	1			5
17. その他の窯業品	増				3					2				5
	減						1			1				2

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18. 揮 発 油	増											
	減				1							1
19. その他の石油製品	増	1	1									2
	減	6	2		2			1	2	1		14
20. コークス・ その他の石炭製品	増											
	減	1			1							2
21. 化 学 薬 品	増											
	減	1					1	1	2			5
22. 化 学 肥 料	増											
	減	2	2		2			1		2		9
23. その他の化学工業品	増		1			2		2		1		6
	減		1	1					1	1		4
24. 紙 ・ パ ル プ	増	1					2	2	2	2		9
	減	2			1	2	2			2	1	10
25. 織 維 工 業 品	増							1				1
	減							2	1	1		4
26. 食 料 工 業 品	増	4	3	1	4		3	7	3	9	1	35
	減		4			2	2	1	1	5	1	16
27. 日 用 品	増	1					2	2		3	1	9
	減	1						1	1	3	1	7
28. その他の製造工業品	増	1		3		1				1		6
	減	1	1	2		1			1	2		8
29. 金 属 く ず	増							1			1	2
	減											
30. その他のくずもの	増							1				1
	減								1	1		2
31. 動植物性飼・肥料	増	4	1						3	1		9
	減	2	3					1		1		7
32. 廃 棄 物	増	1			2			1	2	2		8
	減	1	1					2		2		6
33. 輸 送 用 容 器	増								1	1		2
	減				1							1
34. 取 り 合 せ 品	増							2	1	1	1	5
	減							2		1		3
35. そ の 他	増	2		1	3		2	4	1	5		18
	減	1	1	2	2	2	2	1		4		15